

をもって体験した一年でした。最後の話も、旅行の話でしめたいと思いますが、五月の末、山陰地方を旅行しました。天橋立、鳥取の砂丘、を見学し出雲大社によりました。鳥居の横に「君が代」に歌われているさざれ石が置いてありました。説明を読んでみると、学名を石灰質角礫岩といい、年月をかけて溶解した石灰質が多くの小石を集め成長するという、本当に実在する石だと分かりびっくりしました。ロータリーの第一例会で「君が代」を齊唱しますが、歌詞の内容をあまり理解せず歌っていましたが日本の繁栄を願って、さざれ石にたとえて作られた歌詞だと今回の旅行で初めて知りました。今回で副会長として壇上に上るのは最後だと思います。一年間大変お世話になりました。

点鐘 高橋 猛文会長

開会宣言 小枝 美奈子SAA

ロータリーソング(我等の生業) 小枝 美奈子SAA

会務報告 國枝 千秋幹事

(1)帯広RC、今年度最終クラブ協議会開催のご案内

日 時 平成19年6月20日(水)午後6時

場 所 帯広東急イン

(2)帯広RC、新入会員オリエンテーション開催のご案内

日 時 平成19年6月21日(木)午後6時

場 所 帯広東急イン

(3)年度末最終夜間例会開催のご案内

イ.帯広南ロータリークラブ

日 時 平成19年6月25日(月)午後6時

場 所 北海道ホテル

ロ.帯広東ロータリークラブ

日 時 平成19年6月26日(火)午後6時

場 所 帯広ワシントンホテル

ハ.帯広ロータリークラブ

日 時 平成19年6月27日(水)午後6時

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

ニ.帯広西ロータリークラブ

日 時 平成19年6月28日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

ホ.帯広北ロータリークラブ

日 時 平成19年6月29日(金)午後6時30分

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

(4)例会終了後、臨時理事会を開催いたします。

### 委員会報告

- 出席報告・出席表彰 高原 淳出席委員長  
6月20日例会 会員総数106名(出席免除11名)  
出席64名
- 6月6日の例会メーキャップを含む出席数及び  
出席率 77名 81%



- ニコニコ献金 安達 秀昭親睦活動委員

後藤 裕弘会員 出席表彰 19年

合田 修会員 出席表彰 18年

奥 周盛会員 出席表彰 14年

加藤 維利会員 出席表彰 14年

和田 賢二会員 出席表彰 14年

木村 裕氏会員 出席表彰 9年

小田 剛会員 出席表彰 8年

森 武夫会員 出席表彰 7年

国島 直幸会員 出席表彰 4年

渡辺喜代美会員 出席表彰 3年

薦井 秀則会員

半年間、休会しておりましたが、体調も良くなりまたロータリー活動に復帰することができる様になりました。どうぞ宜しくお願ひします。

讃岐 武史会員

先週テーブル全員出席でした。

讃岐 武史会員

先週に続き今週も全委員出席となりました。

・ご誕生日い 薦井 秀則会員

・ご誕生日い(奥様) 土田 和夫会員 佐藤 有宏会員

・ご結婚祝い 薦井 秀則会員

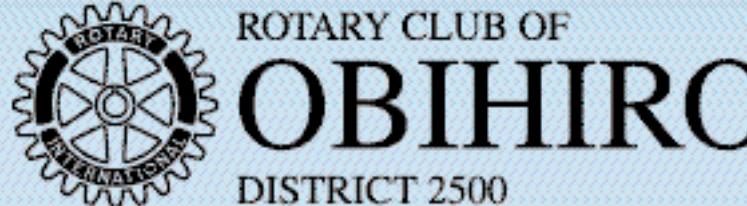
閉会宣言 小枝 美奈子SAA

点鐘 高橋 猛文会長

次週プログラム予定

平成19年6月27日(水)「年度末最終例会」

( 親睦活動委員会 )



2006-2007年度国際ロータリーのテーマ

率先しよう LEAD THE WAY

方針 原 点 会長 高橋 猛文

### プログラム

「会員卓話」 プログラム委員会

「リテラシーをどう身に付ける」 秋元 和夫プログラム委員長



(はじめに)

プログラム委員長の秋元でございます。本年度計13回を予定しておりました当委員会の担当例会も、いよいよ最終回を迎めました。野球の世界では、最終回に登板するのはリリーフエースと決まっております。しかし、歴史と伝統を誇る帯広ロータリークラブでは、既に当地を代表する多くの経営者・経済人にご登場いただいてまいりましたので、締めは私から、比較的軽量のお話をさせていただきたいと思います。テーマは、「リテラシーをどう身に付ける」としております。これは、ロータリークラブが取り組む「識字率向上」(3月)に沿ったものでもございます。

(リテラシーとは)

さて、昨今、テレビのニュースや討論番組などを見ていると、「リテラシー」(識字)という言葉をよく耳にします。「いきなりカタカナ語かよ」とご不満に思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、「リテラシー」は、「レター」や「リテラチャー」と同様に、ラテン語の「リテラ」

(Littera)を語源とする英語で、「言語により読み書きできる能力」を意味しています。そして、現代では、様々な言葉と組み合わせて、「～を使いこなす力」という意味で用いられています。たとえば、私たちを取り巻く多くの情報をしっかりと読み解き、正しく理解するために、「メディア・リテラシー」が重要と指摘され、教育に取り入れられることになりました。また、最近の子どもたちをめぐる学校でのいじめ、出会い系サイト、アダルト・サイトに絡む様々なトラブルが、インターネットや携帯メールなどに起因しているとみられる事から、「インターネット・リテラシー」を身に付ける必要があると言われています。このほかにも、「コンピュータ・リテラシー」、「ITリテラシー」、「情報リテラシー」、「金融リテラシー」などという言葉が、広く使われています。また、短大のカリキュラムの中に、「リテラシー」のカテゴリーを設け、実践的演習を行うところも出てきています。

私は、金融界に身を置く人間ですし、日本銀行情報サービス局金融情報課長(今は、課制廃止によりこのポストはありません)金融広報中央委員会事務局次長として、関係省庁や民間団体等とのネットワーク構築を図りながら、広く国民を対象に「ファイナンシャル・リテラシー」=「金融リテラシー」の普及・浸透に取り組んでまいりました経験もございます。また、それに引き続き、ここ十勝・帯広の地で丸4年に亘り、地域における「金融リテラシー」普及・浸透を実践してまいりました経験もございます。そこで、本日は、「ファイナンシャル・リテラシー」をどう身に付けるか、という点に絞りまして、僅かな時間ではありますが、お話させていただきたいと思います。(金融用語をどのくらいご存知ですか)



例会日 / 水曜日 12:30 ~ 13:30 例会会場 / ホテルノースランド帯広 TEL 0155-24-1234

創立 / 昭和10年3月15日 認証番号 / 3820 戦後再開 / 昭和25年12月19日



事務局 / 帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F TEL 0155-25-7347 FAX 0155-28-6033

発行 / クラブ会報 委員長 / 和田 賢二・石神 美代・加藤 維利・小部 敏一・小白 智志

木本 健・佐藤 瞳浩・宇佐美 暢子

ホームページアドレス / <http://www.tokachi.co.jp/obihiro-rc/>

まず、最初にクイズをします。次の金融商品は6月13~15日の3日間の日本経済新聞朝刊の記事として登場したものばかりです。それぞれどんな特徴があるか、お答えください。

Q1: 証券投資信託

A1: 共同投資によるスケール・メリット、分散投資によるリスクの軽減、専門家による運用・管理。元本保証なく、販売手数料・信託報酬・信託財産留保金などの費用負担がある。今人気の分配型は、複利効果はないが、定期的に現金で収益分配金が得られるメリットがある。

Q2: REIT

A2: Real Estate Investment Trust。不動産投資信託。平成12年11月から。インフレに強いと言われる不動産を投資対象とし、主として家賃収入を配当。

Q3: ETF

A3: Exchange Traded Fund。株価指数連動型上場投資信託。証券取引所に上場され、株式と同様に指値・成行注文、信用取引ができる。

Q4: MRF

A4: Money Reserve Fund。公共料金の引落とし、給振り、証券売買代金の受払などができる証券総合口座用のファンドとして導入された短期金融商品。残存期間の短い高格付の公社債、譲渡性預金(CD)、コマーシャル・ペーパー(CP)等を運用対象とする。

Q5: 個人向け国債

A5: 額面5万円単位でしか購入できない国債の中で、1万円単位で購入可能。中途換金禁止期間(変動金利10年債は1年、固定金利5年債は2年)経過後は額面により中途換金可能。0.05%の最低金利保証あり。

Q6: オルタナティブ・インベストメント

A6: Alternative Investment。株式や債券など伝統的な投資資産以外を対象とした投資手法。ベンチャー・キャピタル、ヘッジファンド、商品ファンド、デリバティブ関連商品、債権の証券化商品などが含まれる。

(ファイナンシャル・リテラシーとは)

ところで、ファイナンシャル・リテラシーを身に付けるということは、決して金融商品に関する理解を深めることのみを指しているわけではありません。私は、人間の生き方にも関わってくるような、もっと大きな大切なものを理解するための能力と言えるのではないかと考えています。申し

上げるまでもなく、お金は日々の労働の対価であり、日々の暮らしの糧であり、自分なりの夢や目標を実現するための極めて重要な手段のひとつでもあります。また、ライフデザイン(生き方のデザイン)、ライフプラン(生活の具体的プラン)を実現していくために、パーソナル・ファイナンスの面から計画を立てる、すなわち「ファイナンシャル・プランニング」を行うということにもつながってきます。

そういう意味で、ファイナンシャル・リテラシーとは、お金を運用したり借り入れたりする金融商品はもとより、税金や今や国民の最大の関心事になっている年金について、正確に理解し、巧く使いこなしていく能力であると言えますし、あるいは振り込め詐欺・脅迫や悪徳商法に関わるようなお金のやり取りについても、トラブルに巻き込まれることのないよう立ち振る舞える生活防衛能力である、と言えるのではないかと思います。

(どう身に付けたらよいか)

それでは、ファイナンシャル・リテラシーは、一体どのように身に付けていけばよいのでしょうか。まずは、お金に関する基本的な制度や仕組み、お金に関して陥りやすい人間の特性について理解することです。そして、それから読み取れるリスクの所在(どこにあるか)、リスクの種類とマグニチュード(大きさ)を理解し、自分自身のリスク許容度を知り、リスクの管理手法を学んでいくことが重要です。あとは、実践を積み重ねながら、未知なるリスクへの嗅覚をも磨く、と言うことでしょうか。やるべきことはたくさんありますが、全てを完璧に理解し、使いこなせるようになることは、残念ながら金融のプロと言える人たちでもまずありません。金融は、日々のIT技術の急速な発達等と相俟って、進化し、複雑化しているからです。

それでは、どうすればよいのでしょうか。学校における金融教育の講義等においても常日頃から申し上げていることなのですが、時間の経過とともに陳腐化していく知識・情報よりも、まずは普遍的な法則や仕組みとスタディ・スキル(学習法)を習得する方にウエイトを掛けていくことが何と言っても重要です。例えば、金融については、金利をみても、債券や株式の市況をみても、為替相場をみても、経済(例えば、価格)の基本と同様に全て「需要」と「供給」によって決まってくると言うことさえ、しっかりと頭に入れておけば様々な事象の本質を見抜いたり、先行きの方向性を見通したりすることが、容易にできるようにな

ってきます。あとはその応用に過ぎません。また、リスクとリターンの関係やポートフォリオ理論による分散投資などについても理解しておけば、リスクを小さくすることができるようになってきます。

(セーフティ・ネットについて知る)

そして、もうひとつ。リスクが顕在化したときに備え、セーフティ・ネットの仕組みについて理解しておくことも重要です。たとえば、今は皆さん方にとっても当たり前になっているとは思いますが、預金保険制度や投資者保護基金、生損保契約者のための保護機構による保護の範囲についてはもとよりのこと、本年9月施行見通しの金融商品取引法や改正金融商品販売法により金融機関に課せられた販売・勧説ルール、消費者契約法、特定商取引法により認められた消費者の契約取消や解除等の権利などについても、本日は改めてご説明はいたしませんが、皆さん方ご自身で今一度おさらいしておくことが大切です。

(様々なリスクを知る)

こうした中で、とりわけリスクについては、その種類を覚えておくだけでも、リスクの所在を感じ取るうえで大いに役に立つことでしょう。具体的に挙げていくと、マーケット・リスク(価格変動リスク)、金利リスク、為替変動リスク)、信用リスク(デフォルト・リスク)、流動性リスクがまずは基本的なものですが、これらのはかにも、カントリーリスク、オペレーション・リスク(事務リスク)、リーガル・リスク(法的リスク)、ヒューマン・リスク(人的リスク)、システム・リスク、リピュテーション・リスク(評判リスク)などもあります。私たちの周りには、金融に関わるものだけでも、たくさんのリスクがあることがお分かりいただけるのではないかと思います。そして、いかなるリスクも、先に申し上げた法則や仕組みをしっかりと理解し、応用していけば、必ず対処できるように思います。自分たちの生活防衛のためと弁えて、しっかりと勉強いたしましょう。今からでも、決して遅いということはありません。(ヌーメラシーも身に付ける)

なお、金融を理解し、トラブルに巻き込まれないようになるためには、ファイナンシャル・リテラシーとともに、ヌーメラシー(計数処理能力)も必要です。最近の子どもたち、若者たちは、基礎学力がないと言われますが、金利感覚がなく、利息計算ができないことが、大きな問題となっています。人々の金利感覚を鈍らせてしまった背景に、日本銀行が7年弱もの長期に亘りゼロ金利を

続けざるを得なかったことがあることは、私としても残念でなりませんが、算数の学力や計算力の低下は、もっと別なところに原因があるのは間違ひありません。

例えば、最近の若者たちに、「あなたは信用できそうな人だから、消費者ローンとしては比較的金利が安い年利18%で、100万円貸してあげる。返済額も月々たった15千円と無理のない範囲にしてあげるから、心配することは何もない」と融資を持ちかけたとします。すると、安易に申し込んでくる人が、結構多いのではないかと心配です。月々の返済額は確かに少ないので、年間の返済額は18万円。利息分にしかなりません。ちょっと、考えれば分かりそうなものですが、元本は全く減らないので、一生返し続けるか、返済期限に一括返済しなければなりません。一方、お金を貸した方は、6年間きちんと返し続けてもらえば、元本相当額の債権を確保したままで、少なくとも元本の回収は終えることができてしまいます。こうしたことを分かってこの種の融資を利用している人はまだしも、そうでない人はいずれ悲惨な状態に陥ってしまうよう思えて、心配でなりません。だからこそ、ヌーメラシーが大切なのです。何せ、先ほどのケースでは、返済額が月々1万円などに減額されてしまったら、利息が利息を産んで、複利で雪だるま式に元本が増え続けてしまうのですから。

帯広ロータリークラブの知性溢れる皆様方は、周囲の人たちに是非ともファイナンシャル・リテラシーとヌーメラシーの大切さを語り掛けてあげてください。十勝・帯広は、もっと住みよい、豊かなまちになっていくような気がします。

会長報告



国島 直幸副会長  
皆さん今日は、今回で会長の代行で壇上に立つのは三回目となります。新年度まもなく、会長が緑化推進運動に貢献したことに対して、内閣総理大臣表彰授与式出席の為、欠席され会長代行の仕事がこんなに早く回ってくるとは思ってもいなかったと云い、富士山の話をしたと思います。二回目は、マジソン市と帯広市との姉妹提携の締結式出席の為、欠席され二ヶ月連続で会長に代わってお話をした記憶があります。その時も旅行の話で、知覧の話をしたと思います。これで会長代行の話をしなくてすむとタカをくくっていた矢先、会長得意の指名二度あることは三度あるということを、身